

(仮称) 幼児教育充実指針について

1. 基本的な考え方（作成の趣旨）

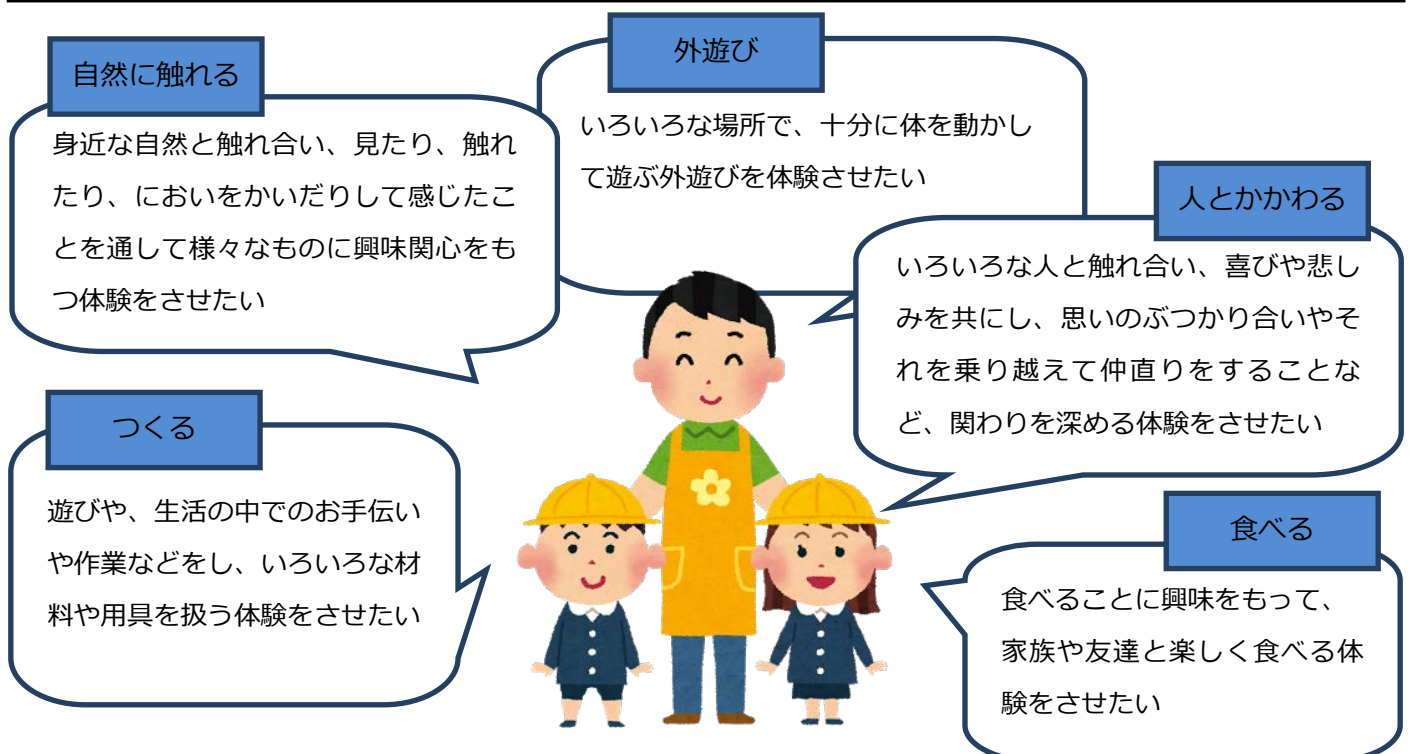
幼児期の教育及び保育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っている。幼児は直接的・具体的体験や、家庭や地域・幼稚園保育所等の様々な人と関わることで、人としての基礎が育っていく。幼児期には心身共に健やかに育つためにふさわしい生活の場、生活の中で触れ合う自然や動植物などの環境、十分に活動できる時間や空間、気持ちの伝え合いや協力を体験できる仲間が必要である。

近年、子育てを取り巻く環境の変化により、幼児期にふさわしい生活が難しい現状があり、核家族や少子化のため、家庭や地域で同年齢や異年齢の幼児同士の関わりも減少している。

そのような現状では、外遊びの減少、人と関わる体験の狭さ、素材や用具を自在に使ったものづくりの機会の減少、外食や即席食品の増加など、幼児が心身共に健やかに育つためには様々な課題がある。平成27年度から子ども・子育て支援新制度が整備され、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進することを国も進めている。

これらのことを踏まえ、前橋で育つ全ての子どもたちが、幼児期にふさわしい生活を送り、必要な体験を十分に行えるよう、家庭（親）や園・所、地域に向けて、幼児が自立し、社会性を身に付けるために大切なことを指針として示すものである。

2. 全ての幼児に幼児期に体験させたいこと



※ その他、推進しながら幼児に体験させたい内容を検討しながら増やしていく。

幼児教育に関わる先生方を応援する手立ての一つとして



幼児教育アドバイザーとは・・・

幼児教育の専門的な知見や豊富な実践経験を有し、域内の幼児教育施設等に出向いて、教育内容や指導方法、環境の改善等について指導を行ったり、保護者の相談や子育てのアドバイスを行ったりする者です。

本市の幼児教育アドバイザーは、幼稚園長・保育所長・小学校長経験者、特別支援教育経験者、臨床発達心理士、言語聴覚士、大学などの教授、子育てサークル主催者等です。

幼児教育アドバイザーの活用例

<現場研修>

幼児教育センターから幼児教育アドバイザーを派遣し現場において研修を行います。

1 保育を参観して、よりよい保育について一緒に考える。

どんな言葉かけがよかったのだろうか？

この環境は子どもにとってよかったのだろうか？

親にどのように話をしたらいいの？

気になる子にどう指導したらいいの？



2 園内研修の中で一緒に考える。

指導計画の立て方は？

保護者対応の心構えは？



親を応援する手立ての一つとして

「子育て井戸端会議」のイメージ

話題提供者 幼児教育アドバイザー

参加者 開催地域の幼児・小学生の親や家族、子育て支援関係者、関心のある市民

進行 幼児教育センター職員等

会場 幼稚園や保育所、公民館やコミセン、総合教育プラザ、児童文化センターなど

所要時間 1時間程度

<p>(例) テーマ</p>	<p>友達とかかわれる子にするには</p> <p>けんかもするけど仲直りできる体験をさせたい 子ども同士のトラブルにはどう対応すればよいのか 子ども同士のトラブルが親まで関係しそうで心配</p>	
	<p>内 容 (例)</p>	<p>推進役</p>
<p>話題提供 ① 15分</p>	<p>友達と関わることは幼児期にどのような意味があるか なぜ、トラブルが起きるのか、トラブルの持つ意味は何か 大人はどのように関われば良いのかを考えるための事例</p>	<p>アドバイザー</p> 
<p>グループで の話し合い 20分</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介 2 友達とトラブルになったときの自分のエピソード紹介 3 トラブルが起きたときの対応の紹介 4 話題提供の事例について感じたこと 5 今後はどうしていきたいか 	<p>各グループに 指導主事やアドバイザーが 進行役として入る</p>
<p>話し合いの 共有 10分</p>	<p>各グループで出た内容を発表し全体で共有する</p>	<p>進行</p>
<p>話題提供 ② 5分</p>	<p>友達と関わりを深めるにはどのように体験させたらよいか 大人はどう関わればよいかまとめる</p>	<p>アドバイザー</p>
<p>各自の 振り返り</p>	<p>各自の振り返り アンケートの記入</p>	